

事務事業名	中心市街地リノベーション事業（荒町・田町地区）			担当	建設部 都市整備課 管理係		
政策名	4	「都市づくり」～暮らしやすさアップ！～		<input type="checkbox"/> 総重（総合計画重点事業） <input type="checkbox"/> 戦拡（総合戦略拡充事業）	<input type="checkbox"/> 総新（総合計画新規事業） <input type="checkbox"/> 戦新（総合戦略新規事業）		
施策名	1	良好な市街地の形成					
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施（開始年度 令和4 年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠							
予算科目							
予算科目							
事業概要	総合計画2020-2024の重点プロジェクト【施策4-1】良好な市街地の形成に位置付けられ、少子高齢化・人口減少社会に対応した魅力あるまちづくりを実現し、まちの活力再生と魅力創出に向け、中心市街地の未整備地域において、まちなか居住のための基盤整備や道路と街並みが調和した沿道整備等のリノベーション事業を推進し、魅力ある市街地の形成を図る。 【荒町・田町地区】については、中心市街地を南北に縦断する重要な幹線道路である都市計画道路中郷八木岡線のうち、未整備区間である『久町通り』と呼ばれる荒町交差点から田町交差点までの約340メートルを整備計画区間とする。本区間は、芳賀赤十字病院の移転などにより交通量が増加しているもの、道路幅員は約7メートルと狭いであり、歩道もないため、緊急車両も含め、安全・安心な交通に支障をきたしている状況であることから、幅員を16mとする計画である。道路交通ネットワークの強化を図るため、整備について県とも連携を図りながら、地権者の意向に配慮した事業手法について検討し、中心市街地の活力再生・魅力創出に向けた『中心市街地リノベーション事業』を推進していく。 【経過】 ・平成31年度：県との覚書締結 『真岡市中心市街地における道路網再編に伴う相互移管に関する覚書』 ・令和3年度：地域説明会・意向調査 沿道整備に対する賛否（沿線地権者対象） 賛成・どちらかと言えば賛成 91.5% 反対・どちらかと言えば反対 6.4% 沿道整備に対する協力（沿道区域対象地権者） 協力する・どちらかと言えば協力する 97.0% ・令和4年度：都市整備課に担当を移管 地域説明会、個別意向調査、権利調査、現況測量等 県道認定（10月）						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）		④ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
4年度実績 ・地域説明会（第2回） ・個別調査（事業説明及び各地権者の意向の確認） ・権利調査及び基礎調査 ・現況測量及び基準点測量 ・主要地方道つくば真岡線及び市道112号線の対象区間について相互移管手続き 5年度計画 ・事業計画案策定（換地設計、資金計画を含む） ・一筆地測量 ・補償調査 ・先行用地買収 ・地権者との合意形成 ・県による街路事業化		名称		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	地域（地権者）説明会・広報紙発行	回				1	2	2
		イ	地権者個別交渉・説明	件					27	30
		ウ	測量・調査等の実施	-					実施	実施
		エ	事業計画（案）の策定	-						策定
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等		⑤ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
都市計画道路中郷八木岡線のうち荒町交差点から田町交差点までの約340メートル 道路西側の1から2宅地程度の区域、約1.09ha 沿線地権者		名称		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	都市計画道路中郷八木岡線	m					340	340
		イ	沿道整備街路事業施行区域	ha					1.2	1.2
		ウ	対象地権者	人					27	30
		エ								
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）		⑥ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
中心市街地を南北へ縦貫する都市計画道路中郷八木岡線のうち、未整備である荒町交差点から田町交差点までの約340メートル『路幅：久町通り』と呼ばれる区間について、現状の約7メートルから16メートルに拡幅する。 県と覚書を締結し、本区間を県道として位置付け、栃木県が道路整備を、真岡市が『沿道整備街路事業』等の暫時的整備を実施することで、道路用地を確保するだけでなく、沿道区域を一体的に整備することにより、中心市街地のまちづくりとして、活力の再生と魅力の創出を図っていく。		名称		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	地権者の同意（個人施行同意）	%						30
		イ	事業認可（事業化）	-						事業計画案策定
		ウ								
		エ								
(2) 総事業費の推移		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)			
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	0	0	0	6,585	0		
	事業費計（A）	千円	0	0	0	6,585	0			

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 真岡市総合計画2020-2024の重点プロジェクト〔施策4-1〕良好な市街地の形成に位置付けられ、沿線地権者への意向調査でも整備に対し「賛成・どちらかと言えば賛成」で91.5%と高い同意率である。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 県と覚書を締結し、本区間を県道として位置付けることにより、栃木県が道路整備を、真岡市が『沿道整備街路事業』等の面的整備を実施することになっている。また、中心市街地リノベーション事業として、道路整備だけでなく、沿道区域を一体的に整備することにより、中心市街地のまちづくりとして、活力の再生と魅力の創出に向けた相乗効果を図っていく事業であり、公共性は高いと考えられる。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 都市計画道路中郷八木岡線のうち未整備区間である荒町寿町交差点から田町交差点までを対象としており、本市の中心市街地として活力再生・魅力創出のため沿道区域を一体的に整備する必要があり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 令和6年度の事業認可(事業化)を目標としているが、関係地権者全員との合意形成が必要であるため、事業認可の早期化は困難である。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統廃合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携ができる(類似の事務事業名:) <input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携できない(類似の事務事業名: 中心市街地リノベーション事業(台町地区)) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由) 中心市街地リノベーション事業として、魅力ある市街地の形成という目的は同一だが、事業エリア・事業手法を異にするため統廃合はできない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 必要最小限の事業費で実施している。また、事業費は県からの公共施設管理者負担金が見込める。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 現時点で県との連携、関係地権者の協力も得られており、事業手法としても『沿道整備街路事業』が効果的と考えられる。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 『沿道整備街路事業』は個人施行の土地区画整理事業として事業認可を得るため、関係地権者の100%の同意が必要である。地権者の意向に配慮するとともに、個々の換地や概算補償金などを提示することにより不安・疑問を払拭し合意形成を図っていく。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 地元との合意形成を十分に図ること。																							